

山縣亮太選手日本新記録樹立を祝う会



2021年6月6日布勢スプリントにおいて陸上競技男子100m9秒95の日本新記録を樹立した山縣亮太選手の日本新記録樹立を祝う会が、学校法人修道学園、一般財団法人広島陸上競技協会及び公益財団法人広島県スポーツ協会の三者の主催により2023年12月10日に行われた。コロナ禍の影響により新記録樹立から2年半後の開催となったが、200名を超える多くの関係者、選手などが集い新記録樹立をお祝いするとともに、パリ五輪に向けた今後の山縣選手の活躍に期待し、会場は大いに盛り上がった。



監督を胴上げる広島県選抜チーム

特別国民体育大会

新型コロナウイルス感染症の影響により開催延期となっていた「燃ゆる感動かごしま国体」は、特別国民体育大会として2023年10月7日(土)鹿児島市の白波スタジアムで総合開会式が行われた。

ソフトボール少年男子チームは、大阪との準決勝で2点のビハインドを最終回の攻撃で跳ね返し、サヨナラ勝ちで勝利し、雨天で短縮日程となり、決勝進出の2チームが同時優勝となった。

(広島県勢の入賞者・チーム一覧は2~3ページへ記載)



特別国民体育大会

「燃ゆる感動かごしま国体」は、令和5年10月7日～17日(会期前9月16日～24日)に鹿児島県で行われた。広島県の総合成績(冬季大会+本大会)は、995.50点で23位となった。

本大会入賞者・チーム一覧

競技名	氏名	所属	種別	種目	順位
陸上競技	山縣 亮太	SEIKO	成年男子	100m	2
	乃美 裕介	広島大学	成年男子	走幅跳	7
	勝治 玲海	九州共立大学	成年女子	ハンマー投	8
	岡林 弓真	広島翔洋高等学校	少年男子A	走幅跳	1
	中島壮一朗	舟入高等学校	少年男子A	5000m競歩	5
	尾瀨 太陽	西条農業高等学校	少年男子A	ハンマー投げ	4
	迫田 明華	西条農業高等学校	少年女子A	砲丸投	5
	江原美月優	神辺旭高等学校	少年女子A	300m	4
	森安 桃風	銀河学園高等学校	少年女子A	3000m	8
	網本 玲菜	宮島工業高等学校	少年女子A	やり投	2
	綾目ひなの	神辺旭高等学校	少年女子A	100m障害	5
	松本 真奈	広島皆実高等学校	少年女子B	100m	2
水泳	競泳	渡辺 隼斗	自衛隊体育学校	100m平泳ぎ	3
		西田 拓郎	神奈川大学	100mバタフライ	7
		山本 優羽	崇徳高等学校	400m個人メドレー	6
	飛込	吉澤 有馬	福山プラザホテル	成年男子	高飛込
森淵茉莉愛		日野自動車	成年女子	高飛込	8
サッカー	渡辺 桃加	暁の星中学校	少年女子	高飛込	6
	団体(15名)	広島県選抜	少年男子	-	4
ローイング	団体(16名)	広島県選抜	少年女子	-	5
	植岡 悠人	宮島工業高等学校	少年男子	ダブルスカル	8
北村 海渡	廿日市高等学校				
ホッケー	団体(14名)	コカ・コーラレッドスパークス	成年女子	-	2
ボクシング	巢守 祐	大竹ボクシングクラブ	成年男子	ライトヘビー級	5
	坂本 竜聖	広陵高等学校(教)	成年男子	フライ級	3
バレーボール	団体(12名)	JTサンダース広島	成年男子	-	1
レスリング	アントニーブライアン	(株)前川製作所	成年男子	フリー125kg	5
	河名真偉斗	自衛隊体育学校	成年男子	グレコ67kg	5
	坂野 修平	(株)TSSプロダクション	成年男子	グレコ87kg	5
	宮崎 幸汰	三次高等学校	成年男子	グレコ55kg	5
セーリング	豊澄 成光	広島なぎさ高等学校	少年男子	ILCA6級	1
	豊澄 麻希	広島なぎさ中学校	少年女子	ILCA6級	1
自転車	田村 一暉	京都産業大学	成年男子	チームスプリント	4
	伊藤 涼介	朝日大学			
	福永 和人	日本体育大学			
	田村 一暉	京都産業大学			
ソフトテニス	桑原 悠	広島城北高等学校	少年男子	ケイリン	8
	吉岡 詩織	日本競輪選手会	成年女子	ケイリン	7
	団体(5名)	NTT西日本ソフトテニス部	成年男子	-	1
	団体(5名)	広島翔洋高等学校	少年女子	-	1
卓球	中村 廉	瀬戸内スチール(株)	成年男子	-	5
	飯村 悠太	明治大学			
	木村 飛翔	駒沢大学			
	枝廣 瞳	中国電力ライシス	成年女子	-	5
	大島 奈々				
	木村 光歩				
	工藤 真桜				
小野 蒼彩	進徳女子高等学校	少年女子	-	5	
福井 蓮彩					
馬術	刈谷 幸生	刈谷乗馬クラブ	成年男子	六段障害飛越	1
	刈谷 幸生	刈谷乗馬クラブ	成年男子	国体大障害飛越競技	8
	三好 真紀	佐伯ホースパーク	成年女子	標準障害飛越	8
	眞田 蒼	廿日市市立佐伯中学校	少年男子	二段階障害	4
ソフトボール	団体(13名)	広島県選抜	少年男子	-	1
ライフル射撃	森川 清司	広島県警察本部	成年男子	AP60	5
	中重 勝	広島県警察本部	成年男子	CFP60	7
	中重 勝	広島県警察本部	成年男子	CFP30	7
ラグビーフットボール	団体(11名)	広島県選抜	成年男子	-	3
カヌー	深田 康平	広島県カヌー協会	成年男子	カヤックシングル(200m)	6
アーチェリー	河田 悠希	(株)エディオン	成年男子	団体戦	2
	伊藤 魁晟	日本体育大学			
	住谷 和輝	関西大学			
	堀口 理沙	(株)エディオン	成年女子	団体戦	1
	樽本 邑里	(株)エディオン			
	森 帆乃花	日本体育大学			
	沖野 直晴	廿日市市立佐伯中学校			
中川ファトゥル	広島県立可部高等学校	少年男子	団体戦	6	
佐々木秀汰朗	広島県立海田高等学校				
空手道	新井 蓮	近畿大学工学部	成年男子	重量級	5
	石本 美来	JFEスチール西日本	成年女子	個人戦	2
ボウリング	団体(4名)	広島県選抜	成年女子	4人団体戦	2
	北川 幸希	賀茂高等学校	少年女子	2人団体戦	8
	渡邊 葵	広島大学付属福山高等学校			

見事第1位の栄冠を勝ち取った選手たち



ソフトテニス：成年男子



アーチェリー：成年女子



ソフトテニス：少年女子



ソフトボール：少年男子



苅谷幸生(馬術：成年男子)



バレーボール：成年男子



岡林弓真(陸上：少年男子)



豊澄成光(セーリング：少年男子)



豊澄麻希(セーリング：少年女子)

未来を、 こうしよう!

私たちに、描いているビジョンがあります。
 緑あふれる環境の中で、誰もが笑顔で働き、学び、生活できる未来。
 私たち中電工が、持続可能な社会づくりに貢献していきます。
 これからも時代のニーズに合わせて進化し続けるから、
 みなさまとともに歩んでいきます。

屋内電気工事

情報通信工事

送変電地中線工事

エネルギー関連工事

空調管工事

配電線工事

リニューアル工事

環境関連工事

中電工

CHUDENKO

〒730-0855 広島市中区小網町6番12号
www.chudenko.co.jp

特別国民体育大会報告会

「燃ゆる感動かごしま国体」の報告会が11月20日(月)にANAクラウンプラザホテル広島で行われ、各競技の監督・コーチ、競技団体役員、本部役員等の関係者100名が出席した。

あいさつ

(公財)広島県スポーツ協会会長 特別国民体育大会広島県選手団団長 荻田 知英



昨年の26位という大変厳しい結果を受け、厳しい道のりではあるが、目標に向けて「前に進むのみ」という気持ちで臨んだ大会だった。選手・監督の皆さんも、それぞれが自己のベストを尽くそうと望んでいただいたことと思う。成績は、昨年より順位を3つ上げて男女総合の天皇杯23位という結果だが、目標に向けての第一歩は進めたのではないと思う。良かった点、悪かった点等、関係する全ての皆さまが共有し、来年から大会名称が変わる「佐賀国民スポーツ大会」に向けて新たなスタートを切ってほしい。監督・選手、そして本日本日お集りいただいた関係者の皆様には、大変ご努力をいただき、深く感謝を申し上げる。来年もまた、本県が目標としている8位以内入賞を目指して頑張ってもらいたい。

国民体育大会総括

(公財)広島県スポーツ協会専務理事 特別国民体育大会広島県選手団総監督 小寺 洋



男女総合成績は今回23位、前回の26位から3つほど順位を上げて、獲得得点は102点の増加となった。これはまさに各競技団体の皆様に精一杯活躍していただいていた結果と捉えている。また帯同していただいたドクター、トレーナーの方々には選手のケアに務めていただいて、そのおかげで万全の態勢で大会に臨むことができたと思っている。心から感謝を申し上げる。

冬季大会は今回は入賞ができなかったが、広島県には通年使用できるスケートリンクが無いという、本当に厳しい練習環境の中、本当に頑張っていると思っている。関係者の皆様方にはこのような状況ではあるが、引き続き強化に向けた取組をお願いしたい。

本大会に出場するためには中国ブロック大会を突破していく必要がある。しかしながら広島県の突破率は40.8%で岡山県に10ポイント以上離されている。この差を埋めてさらには岡山県を上回っていく必要がある。そうしないと本大会での得点が積みあがってこない。これまで中国地方の雄と言われていた広島県だが、今は岡山県に次ぐ2番手として苦しんでいるし、実は山口県もすぐ後ろに迫ってきている。まずはこのブロック大会を勝ち上がって頂くことを念頭に強化に取り組んでいただきたい。

本大会で第1位を勝ち取った競技、団体ではソフトテニス(成年男子)の3連覇達成、同じソフトテニス(少年女子)、バレーボール(成年男子)、ソフトボール(少年男子)、アーチェリー(成年女子)。個人種目では陸上(少年男子)岡林選手、セーリング(少年男子)豊澄選手、同(少年女子)豊澄選手。馬術(成年男子)荻谷選手が優勝された。そしてホッケー(成年女子)、アーチェリー(成年男子)、ボウリング(成年女子)、陸上競技(成年男子)山縣選手、同(少年女子)松本選手、網球選手、自転車(成年男子)田村選手、ボウリング(成年女子)石本選手が第2位になられた。これら優秀な成績を残された選手の皆様には心から称賛を送りたい。

少年種別は前大会を162.5点上回った。順位も46位から24位に上昇している。前大会の後に各競技団体においてしっかり現状分析をしていただいて、取組を進めていただいているが、その成果がすぐに出てきたものとは捉えていない。引き続き少年種別では10位台に入るよう取組を進めてほしい。

国体選手強化費は、広島国体後もほぼ同額の強化費を保持しているが、広島国体以降、8位以内という目標は達成できていない。来年から国民体育大会の名称が国民スポーツ大会となる。これを機に、さらにチーム広島一丸となってしっかりと取り組んでまいりたい。

国民体育大会の成績について

(公財)広島県スポーツ協会強化委員長 河野 裕二



これからの国民スポーツ大会を戦っていくには、中国ブロック大会をどう抜けるかということになる。

今回山口県がかなり得点を取っており、広島県のすぐ後ろまで来ている。これから岡山県・山口県・広島県で3つ巴の戦いをしながら、佐賀以降の国民スポーツ大会の戦いを進めていくことが予想される。その中で各競技団体は少年の部をどう育成するか、どう選手を発掘するか考える必要がある。

中学世代に優秀な選手が育ちながら、高校へ進学する時に他県に流出することが大きな課題としてある。各競技団体とのヒアリングで、いくつもの競技団体から「広島から選手が出て行ってしまふ。どうにかならないか。」という話が出る。岡山県も山口県もどう得点を取っているかという、すべての競技で少しずつ得点を取っているわけではなく、得意なところで重点的に得点を取っている。両県とも小学生、中学生の段階から、県レベルで強化事業、選手発掘事業を10年以上前からやっており、その競技が高得点を取っている。広島県においても数年前からそのような取組を始めているが、その参加者が今回ボウリングで8位に入賞した。これからそのような選手達が育って活躍することが少年の部の底上げにつながると思う。各競技団体に置かれてはジュニアの強化・育成費を確保することが難しい面もあると思う。そういうなかで、県としてスポーツ協会として、ジュニアの強化・育成事業を始めているので、連携してやっていきたい。

私たちがこつこつと選手と一緒に強化を進めていく事が必要。今後、広島で育った小学生・中学生が広島で頑張ってもらえるようなスポーツ環境を作ればいいと思う。選手一人に絞ってみれば、その選手が世界的な選手になるならば、どの県で指導されて育ってもいい。しかし広島のスポートという事でとらえるならば、やはり広島で育ってほしいと考えている。来年以降、地道にジュニア層の選手を育てていく取組を、広島県スポーツ協会としても継続していきたいと考えている。各競技団体においてもジュニアの育成に努めてほしい。

中国電力はシンボルスポート部の活動を通して、地域のスポーツ発展に貢献するだけでなく、夢に向かって挑戦し続けることの大切さを子どもたちに知ってほしいと願っています。

中国電力株式会社
<https://www.energia.co.jp/>

競技団体、指導者・監督からの報告

陸上競技(これまでの取り組みと今回の成果、今後の取り組みについて)

監督 松谷 清志



陸上競技は種目が多岐にわたるので、これをどのように協会として強化していくかというところを考えて、現在、棒高跳び、投的、長距離、ハードルの練習会を月一程度実施している。特にこの4種目は特殊技術が必要で専門の指導者がいないとなかなか安定していかないので、指導者に学校に来ていただいている。

短距離、跳躍については、選手が少しでも現地会場に慣れた状態で臨めるよう、開催地での現地合宿を継続して行っている。今年新たに特別育成という予算をつけて頂いて、インターハイ出場選手を対象に県外の指導者を30名程度集めて、専門的な指導をしてもらった。1日だったが選手にとっては横のつながりの構築、また広島県で専門的な指導が受けられるという事で、かなり全国大会に向けた士気が高まった。これを発展させて1月と2月に、中学生も加え、指導者も40名規模に増やして、細かい種目別の強化練習会の開催を予定している。少年選手の強化が重要だと考えているので、来年度も頑張っていきたい。

ソフトテニス競技(今大会の振り返り、今後の取り組みについて)

広島県ソフトテニス連盟 強化委員長 田中 敏雄



国民体育大会として開催される最後の大会で男女総合優勝を獲得することができたことは当連盟においても大変うれしく思っている。

特別国体直前まで中国杭州で行われたアジア競技大会終了の3日後の鹿児島入りになり、選手の体調が懸念されていた。残念ながら成年男子の選手1名がアジア競技大会終了後、体調を崩してしまい、選手の交代を余儀なくされた。その代役で出場となった選手は、全勝し、成年男子の三連覇に大きく貢献してくれた。少女子についてもインターハイの雪辱を晴らすべく、初戦から決勝まで失点ゼロの完全優勝を獲得した。準決勝、決勝と強豪チームを撃破しての優勝となった。成年女子については残念ながら初戦敗退という結果になってしまったが、次年度は選手構成も変わってくると思っている。強化を引き続き継続し、優勝を目指していきたい。

今後、来年佐賀県で開催される第78回国民スポーツ大会において2年連続の男女総合優勝を目指していく。新たな名称で開催される国民スポーツ大会で歴史を刻む取り組みを関係団体と一緒にやって行っていきたい。

ソフトボール競技(今大会の振り返り、今後の取り組みについて)

少年男子監督 日野 隼一



大会に臨むまでの取り組みについて3点を報告させていただく。

1点目は県ソフトボール協会との連携。強化委員長をはじめ協会スタッフの方々には、週末の練習・練習試合に足を運んでいただき、指導方法の助言や選手への声掛けを行っていただいた。大会期間中も選手起用や技術指導などコーチ、スタッフのサポートが手厚く、選手たちもそれを信頼し、粘り強く最後まで思い切ってプレーすることに繋がった。2点目は中学生の育成・強化。近年、呉や尾道に中学生のクラブチームができたことに加え、協会が中心となって、中高合同練習を行うことで、中学生の競技力が向上してきた。中学生選抜チームも毎年安定して全国大会で好成績を収めている。国体でも1年生や中学生クラブチーム出身の選手が主戦力として優勝に貢献した。3点目は年間を通しての計画的な強化遠征。8月から9月にピークを合わせて競技力の高いチームの多い四国・九州への強化遠征を重ねた。鹿児島県の優勝候補のチームとも練習試合を行って、勝ち切るための試合運びなど、成功体験を積み、選手たちも自信をもって本大会に臨むことができた。

今後に向けて、代替わりしても毎年安定した競技力・成績を残せることを意識しており、協会との連携をさらに密にして、ジュニア世代の育成を含む県内高校の競技レベルの底上げにつなげていく。また御調高校から日本トップリーグで活躍している選手たちに帰ってきてもらい、小中高校生にソフトボールクリニックを行おうと計画している。技術伝達はもちろん、子供たちにとってはいいモデルとなり、モチベーションの向上につながると考えている。

アーチェリー競技(今大会の振り返り、今後の取り組みについて)

監督 戸田 敦大



今回の総合優勝はバックボーンとして、実業団としてエディオンのチームがあるということ、民間のアーチェリー施設(佐伯国際アーチェリーランド)が選手を供給しているということが背景にあったからこそできたと思っている。普段はチームの個人がばらばらで練習しているので、国体1週間前に成年の選手も少年の選手も広島に集めて練習試合をした。このように子供たちにとって憧れが近くにいるという状況を、何年も何年も積み重ねて今回の総合優勝につながったと思っている。

選手には「勝てなくてもいい。皆で楽しもう。もう1回原点に戻って、アーチェリーの面白さを確かめよう」と伝えた。他の競技もそうかもしれないが、特にアーチェリーは心の格闘技、メンタルで戦う部分があるので、その緊張を抜いてあげる。どうしても勝ちたい、広島のために勝ちたいという思いが強くなって、プレーの硬さに繋がっていた。

アーチェリーは中学で取り組んでいる選手が少なく、多くは高校からのスタートとなるので、強化が非常に難しい。これから少子化が進み、各競技の取り合いになるのは確実にわかっていることであるが、どのようにすみ分けをして、どのように強化していくかということ、自分の競技団体だけでなく全体を考えないといけない。やったことのない事、新しいことにチャレンジしていく広島県であってほしい。

未来を、ひろげる。

HIROGIN HOLDINGS

広島銀行 | ひろぎん証券 | しまなみ債権回収 | ひろぎんヒューマンリソース | ひろぎんキャピタルパートナーズ
ひろぎんリース | ひろぎんエリアデザイン | ひろぎんクレジットサービス | ひろぎんITソリューションズ

(2023年7月21日現在)

「スーパージュニア選手育成プログラム2023」第2回体験プログラム



8月5日(土)、広島県立総合体育館において、第2回体験プログラムを開催しました。第2回体験プログラムは、午前が「バドミントン」、午後は「バスケットボール」です。

午前のバドミントンは、広島ガス株式会社バドミントン部の皆さんに指導をしていただきました。まずは、準備体操からはじまりウォーミングアップを行いました。お手本をみながら、さまざまなステップの動作を練習し、からだを温めていきます。からだが温まったところで、さっそくラケットをもって持ち方、振り方を教わっていきます。選手のお手本をみながら、基本となる素振りを繰り返し行いました。そして、実際にシャトルを打っていきます。最初は、なかなかうまく打ち返すことができなかった選手もだんだんと慣れてきて打ち返すことができるようになってきました。また、シャトルをラケットですくう練習や、シャトルを直上へうちあげて打つ練習等もおこないました。うまく打てなくて試行錯誤する様子もみられ、指導者のお手本を参考に一生懸命頑張っていました。今回は、試合をするまでには至りませんでしたが、この体験をきっかけに、バドミントンの魅力を感じ、新しいスポーツにも挑戦してくれたら嬉しいです。



午後のバスケットボールは、広島ドラゴンフライズ#12中村 拓人選手、同スクールコーチの田中 直樹コーチ、同スクールコーチの村上 雅菜コーチに指導していただきました。最初に、「ハドル(円陣)」をし、中村選手の掛け声のもと、みんなで気持ちを高めていきます。その後、準備運動やステップ運動などしていきます。次に、ボールになれるためのドリブルの練習をし、チームでドリブル競争も行いました。チームのみんなで一団となって選手同士で応援して、勝ったチームからは、歓声が沸きました。次に、シュート練習を行いました。三回続けてシュートが決まると、「注目!」と言ってみんなの前でシュートをするようにとコーチから指示がありました。練習を続けていると、選手の一人が「注目!」と。みんながその選手の周りに集まりました。緊張する中、見事4本目のシュートを決め、大きな歓声が沸きました。



その後、チームごとに分かれ、シュートの数の勝負をしました。チームの中で、シュートが決まると「ナイスシュート!」、決まらなかったら、「ドンマイ!」と声を掛け合いながら、チーム対抗戦を行い、盛り上がりがありました。そして、最後はお待ちかねの試合です。今日学んだ、パスやシュートを使って白熱した試合になりました。最後に参加した全員で集合写真を撮って終了しました。

また、今回の保護者を対象に行ったサポートプログラムは、スポーツ医・科学委員会委員の櫻井由佳先生による「スポーツ活動中の水分摂取」の講話でした。スポーツ活動中の熱中症の予防について、どのような症状がでるのか、どのようなことを対策すべきなのか、具体的に説明していただきました。質疑応答ではたくさんの質問がでて、参加した保護者も熱心に聞いていました。

「スーパージュニア選手育成プログラム2023」第3回体験プログラム

9月2日(土)、広島市安佐北区のコカ・コーラレッドスパークスホッケースタジアムにおいて、第3回目の体験プログラムを開催しました。

今回の体験競技はホッケーです。指導してくれたのは、日本リーグや国民体育大会で活躍し、東京2020オリンピックでは多くの選手が日本代表となったコカ・コーラレッドスパークス女子ホッケー部の選手です。忙しい中でのプログラムにも丁寧なやさしく指導していただきました。

ホッケーは普段あまり経験する機会がないので、昨年このプログラムに参加した選手以外のほとんどの選手が初体験だったのではないのでしょうか。まず、ホッケーの基本的なルールや道具の使い方を教わった後、まずは選手と一緒にウォーミングアップをします。そして、いざ、グループに分かれて練習です。慣れないスティックを持ってリフティング、ドリブル、パスを教わってもらいますが、なかなか上手いきません。ホッケーのスティックは片面しか使えず、右利きも左利きも同じスティックです。レッドスパークスの選手を見ていると簡単そうに見えますが、実際にやってみるととても難しいですね。



スティックを使って、ボールをすくいあげる練習もしました。少し慣れてきたところで、次はシュートとドリブルの練習です。シュートの練習では思い切り空振りをしてしまう姿も多くみられましたが、練習終盤ではゴールに突き刺さるようなシュートが打てるようになりました。ドリブルの練習では、力加減が難しいのかすぐにボールが遠くに行ってしまうと上手に進めませんでしたが、レッドスパークスの選手のアドバイスのおかげで、スムーズにドリブルができるようになっていました。

最後はお待ちかねのゲームです。学年別男女別の6チームに別れてゲームを行いました。最初は、どうしてもボールに人が集中してしまい団子状態でしたが、レッドスパークスの選手の明るく楽しくわかりやすいご指導のおかげで、だんだんとコツをつかみ、初心者も選手ばかりとは思えないほど、良いゲームができていました。

普段個人競技をしている選手達も、自分だけではなく周りの仲間と連携してゴールを目指すことや、フィールドを広く使う大切さなど、チームゲームの面白さを味わうことができたのではないのでしょうか。ジュニア選手たちは普段なかなか体験できないホッケー競技を十分に満喫できたと思います。今日の体験がきっかけとなり、将来、レッドスパークスやオリンピック日本代表で活躍する選手が出てくることに期待しています。



「スーパージュニア選手育成プログラム2023」第4回体験プログラム

11月18日(土)の第4回体験プログラムは、午後からバレーボールを実施しました。バレーボールは、JTサンダーズOBの方々のご協力のもと、広島市南区にある猫田記念体育館で開催しました。最初はストレッチやボールを持って鬼ごっこを行いました。怪我をしないためにも入念な準備が大切です。



チームに分かれて、ボールを転がすゲームなど、ボールを使いながら身体を温めていきます。また、ボールを遠くへ投げる練習などをしてボールに慣れていきます。

次にアンダーハンドパス、オーバーハンドパスの練習をしていきます。講師の先生から気を付けることを教わり、実際にやってみます。一番のポイントは、「あごをあげないこと」。簡単なことのようになかなか上手く意識できません。膝のクッションをうまく使って試行錯誤しながら、最初うまくできなかった選手もだんだんできるようになっていきます。講師の方が周って丁寧に教えてくださるので、正しいフォームを身に付けることができました。



次は、一人ずつ順番にスパイクの練習です。スパイクをする前にステップの練習、手の振り方を教わりました。最初は、タイミングが合わなくうまくできない選手もいましたが、少しずつ上達してきました。

最後はお待ちかねの試合です。男女・学年で別れてチームを組んで対戦しました。試合が始まると、最初は、団子状態。なかなかラリーが続けません。少しずつ、声を出すようになり、コートを広く使うようになりました。団子状態にならないでコートを広くつかうこと、また声を掛け合うことの重要性を知ったのではないのでしょうか。声を掛け合うことで連携がとれるようになり、点が入るとチームで「ヤッター」と声を上げる選手やハイタッチをするなど盛り上がりがありました。



第48回 広島県民スポーツ大会開催

令和5年9月10日から11月23日の間、県内各地において11競技を開催した。天候等での中止もなく一般の部・スポーツ少年団の部、計4,659人が参加し熱戦を展開した。

各競技の1位は次のとおり。

競技【部】	種別	種目	第一位		
陸上	スポーツ少年団の部	小学	男子	100m 丸山 翔大 (CHASKIジュニア)	
			男子	80mH 宮田 明悟 (東広島TFC)	
			男子	4×100mR CHASKIジュニア-A	
		女子	走幅跳 遠山 桜雅 (中条走ろう会)		
		女子	100m 中澤 心菜 (東広島TFC)		
		女子	80mH 日高 蘭奈 (CHASKIジュニア)		
	中学	男子	男子	4×100mR 東広島TFC-A	
			男子	走幅跳 橋本 羽花 (セトナミススポーツクラブ)	
			男子	200m 橋本 優音 (セトナミススポーツクラブ)	
		女子	女子	4×100mR セトナミススポーツクラブ	
			女子	走高跳 黒永 拓海 (庄原市)	
			女子	砲丸投 柳生陽日紀 (庄原市)	
	一般の部	男子	男子	200m 武廣 優南 (東広島TFC)	
			男子	4×100mR 東広島TFC	
			男子	走高跳 栄 碧唯 (三原陸上)	
		女子	女子	砲丸投 本田小百合 (庄原市)	
			女子	3000m 保岡 里志 (三原市体協)	
			女子	4×100mR アトレティカ広島	
柔道	スポーツ少年団の部	男子	男子	砲丸投 山田 篤史 (セトナミススポーツクラブ)	
			男子	4×100mR 広島ジュニアオリンピッククラブ	
			団体戦	小学生(3・4年)	興仁道場
				小学生(5・6年)	八本松柔道教室
				中学生	崇徳学園
			個人戦	小学3年生	川俣 稔生 (興仁道場)
		小学4年生		鑄鍋 臣 (八次)	
		小学5年生		森口 鉄生 (平良)	
		小学6年生		堂處 健斗 (興仁道場)	
		中学1年生		高原 悠凜 (崇徳学園)	
		中学2年生		窪 将真 (崇徳学園)	
		女子	団体戦	小学生(4~6年)	川口
	中学生			安芸柔心館	
	小学生3年生			堂處 愛 (興仁道場)	
	個人戦		小学4年生	中原 亜緒 (熊野)	
			小学5年生	角田 彩 (有朋)	
			小学6年生	富田 真央 (有朋)	
	一般の部	男子	男子	中学1年生 川口 稀琳 (興仁道場)	
男子			中学2年生 中曾 玲衣 (能美)		
男子			中学3年生 佐藤 綺咲 (安芸柔心館)		
女子		女子	一般の部 東広島倶楽部 (東広島市)		
		女子	小学3・4年生男子 大熊 天晴 (東広島剣道クラブ)		
		女子	小学3・4年生女子 吉原ここね (安浦一心館)		
剣道	スポーツ少年団の部	小学5・6年生男子	吉川 鉄平 (呉悠心会)		
		小学5・6年生女子	磯辺 彩月 (黒瀬剣道教室)		
		中学生男子	橋本 大治 (安浦一心館)		
		中学生女子	大熊 梨生 (東広島剣道クラブ)		
		一般の部	男子	呉市A	
	女子	廿日市市			
ソフトボール	スポーツ少年団の部	A	土堂小学校子ども会ソフトボールチーム		
		B	小谷		
		C	本郷中央		
		D	沼田東ファイターズ		
		E	郷原ジャガーズ		

競技【部】	種別	種目	第一位	
ソフトボール	一般の部	A	吉島東体協 (中区)	
		B	大芝体協 (西区)	
		C	御衣尾ソフトボールクラブ (府中町)	
	三原会場	D	中野体協 (安芸区)	
		E	安学区体協 (安佐南区)	
		F	山波小学校区体協 (尾道市)	
バスケットボール	一般の部	男子	可部クラブ (広島市)	
	女子	BOOSTERS (三原市)		
バレーボール	一般の部	男子	坪生WINS (福山市)	
	女子	スパーク (廿日市市)		
ソフトテニス	少年団の部	小学生	大村悠斗・水澤魁人 (三原ジュニア)	
		中学生	森川永登・西村隼 (三原ジュニア)	
	一般の部	男子	中川太智・講初遼音 (音戸)	
		女子	空河内心暖・平川友楓希 (祇園東)	
バドミントン	男子	団体戦	フェニックス久松台	
	女子	団体戦	東野BSC	
卓球	スポーツ少年団の部	男子	小学1・2年生	江崎 海 (ティーエス)
			小学3・4年生	田中 遥翔 (ヒロタク)
			小学5・6年生	小櫻 蒼昊 (ヒロタク)
		女子	中学1年生	平田 尊大 (東広島スカイジュニア)
			中学2年生	山地錦治郎 (東広島スカイジュニア)
			小学1・2年生	横野 恵麻 (ヒロタク)
	一般の部	男子	小学3・4年生	村上 里花 (可部町卓球)
			小学5・6年生	山本 祐菜 (可部町卓球)
			中学1年生	住川 詩織 (広島フェニックス)
		女子	中学2年生	西尾 彩花 (広島フェニックス)
			小学1・2年生男女	矢野 奨悟 (牛田新町)
			小学3・4年生男子	寺西 春翔 (拳志館下黒瀬)
空手道	組手	個人戦	小学5・6年生男子	升田 一吹 (吉田)
			中学生男子	福原 要汰 (拳志館龍王)
			高校生男子	安井 楽斗 (拳志館昭和)
		女子	小学3・4年生女子	小西 燎 (世羅)
			小学5・6年生女子	岡村 渚 (和道会広島東)
			中学生女子	馬屋原知佳 (近大福山)
	個人戦	高校生女子	高田なつみ (拳志館夢ヶ丘)	
		団体戦	府中緑 (府中町)	
		小学生9級以下	白池 清登 (牛田新町)	
		小学生7・8級	茶林 澄磨 (坂町)	
		小学生5・6級	宮原 空太 (拳志館八本松)	
		小学生3・4級	岡野 史門 (坂町)	
形	小学生2級以上	川瀬 蒼太 (坂町)		
	中学生男子	河本 勇佑 (西広島松濤塾)		
	中学生女子	尾川 悠 (拳キッズ)		
	高校生男子	玉城 瑠人 (東浄)		
	高校生女子	池田 胡陽 (和道会広島東)		
	団体戦	安芸府中 (府中町)		
ゴルフ	一般の部	男子	安芸太田町	
		女子	東広島市B	



総合型地域スポーツクラブ交流会開催

9月24日、第48回広島県民スポーツ大会総合型地域スポーツクラブ交流会を江田島市の長浜海水浴場で行い、カヌーやモルック体験で交流を深めた。



広島スポーツ余話 ⑦

広島サッカーの悲願結実、72年ぶりに聖地誕生

広島城の西隣に、巨大スタジアムが登場した。「エディオンピースウイング広島」と名付けられたサッカー場である。新装のスタジアム誕生の陰には、長い流浪の過去があった。発端は被爆直後の焼け野原の広島にさかのぼる。

焦土と化した広島を、スポーツの力で復興させようとする機運が起きたのは1947年暮れ。第2回国民体育大会(石川県)の帰途、県スポーツ関係者から「広島復興には、国体を誘致してインフラ整備を」の声が上がり、県、広島市の両議会が国体誘致を発議。愛知県との誘致争いの末、1951年の第6回国体の広島開催が決まる。

同じころ、広島市は平和記念都市建設法が公布(1949年)され、復興の槌音が高まり始めた。そうした中で国体の競技会場選定も急務だった。財政難、用地不足もあって既存施設や学校などの活用でしのご方針で進んだ。広島市のサッカー会場はどうなったのか?

広島城一帯は戦前、陸軍の軍用地が占め、兵士を訓練する広島西練兵場も広がっていた。当初の会場案では、練兵場北方に「球技場」を建設することにした。北隣には48年、市中央テニスコートが完成していた。一帯をスポーツゾーンとする初期構想も市にはあったからだ。偶然だが、平和記念公園の設計コンペに当選した丹下健三のプランにも「広島城周辺の軍用地跡に、スポーツ・文化ゾーン建設を」との提言もあった。

広島市国体準備委員会次長として陣頭指揮にあたった一人に、同市議会議員の結城康治がいた。生粋のサッカーマンだ。旧制広島一中(現国泰寺高校)5年の1925年、第2回明治神宮大会優勝の鯉城蹴球団メンバーであり、進学した慶應義塾高等部では主将を務めた。帰郷後は中国蹴球協会(現県サッカー協会)主事となり、戦後は市議の傍ら県体育協会や市体協理事長など要職を重ねた。結城にとって専用球技場建設は最大のチャンスだった。

しかし開催前年の1950年夏、サッカー会場は暗礁に乗り上げた。当初案では新設の球技場と国泰寺高を併用する計画だった。だが、同年6月25日付中国新聞に載った会場進捗状況一覧によればサッカーは25%しか整備が進んでいない。結城らの催促にもかかわらず、県、市当局の反応は鈍かった。

球技場建設の遅れには理由があった。社会保険病院建設の交渉が厚生省(現厚生労働省)と行政側で進んでいた。50年8月には同省保険局長が現地視察し、市は旧練兵場の球技場予定地と同市舟入病院用地を候補地に示した。局長は球技場案が適地と即答したという。以降、サッカー協会と県、市の関係はこじれた。最終的に市議の結城が折れた。10月21日の市議会全員協議会は「病院建設」を承認した。現在の広島市民病院建設が決まった。保険局長は安田巖。のちの安田学園理事長であり、広島一中で結城の1年後輩にあたった。

国体サッカー会場は結局、市内の国泰寺、基町両高グラウンドを改修して実施した。この時の県高校代表は会場校の国泰寺。自校で健闘したが、3位決定戦で敗退した。

サッカー専用グラウンド建設は以後、まったく進展を見なかった。1957年天皇杯全日本選手権をはじめ主要大会はことごとく、市中心部の国泰寺高で行った。1965年から始まった日本サッカーリーグ(JSL)の広島会場は国泰寺、広大付、皆実高を使用した。国際大会や招待試合では広島市民球場を借用、1960年から67年まで6試合が行われた。



偉容を現した「エディオンピースウイング広島」

1968年の広島インターハイを機に同市観音新町の総合グラウンドが面目を一新し、JSLの東洋工業(現マツダ)はやっと本拠地を得た。1994年広島アジア大会前には広島ビッグアーチ(広島広域公園陸上競技場)が完成し、Jリーグ・サンフレッチェ広島のホームグラウンドに。しかし、いずれも陸上競技場であり、観戦には不向きな面も指摘された。

第6回広島国体から72年、やっと広島にサッカー専用の舞台が出現した。2024年2月10日、キックオフのホイッスルが鳴る。

広島県スポーツ協会広報委員長 渡辺勇一(広島経済大学名誉教授)



旧広島市民球場での国際試合
(1965年11月18日トルバド・モスクワ-東洋工業)
「広島サッカー85年史」



マツダは、スポーツを通じて地域の活性化や発展に貢献するとともに、
様々なステークホルダーの皆様へ愛されるチーム作りに取り組んでいます。

